

明日の県立図書館を思う

榎本和能さん(三重県立津高等学校長、三重県学校図書館協議会会長)

県立図書館について

図書館として、どこを目指しているのか、どうありたいのかを明確にすべきではないか。入館者や貸出を増やしたいのか、そうでないのか。

例えば、小・中・高校などの児童生徒、社会人、高齢者等世代別の視点で、それぞれに対してどのような図書館づくりをするのか、ということの検討も必要ではないか。

学校図書館と県立図書館との連携

最近では多くの学校で学校図書館の一般開放を行っているので、県立図書館と連携できるとよい。サービスの対象は県民であることに変わりはない。

県立図書館の MILAI と、県立学校の「くまたろうの森」との連携についても意識してほしい。

図書館の活性化

学校において、積極的に教員と連携しながら活動している図書館と、生徒の来館を待っているだけの図書館とでは、学校経営における図書館のウエイトに大きな差が出ている。図書館の活性化は、予算以外にも様々な方策はある。学校司書の役割は大きいと言える。

例えば、新聞の切り抜きをテーマごとに整理して、それが小論文対策などに活用できるといことを教員に提案していくような「提案型」で図書館を活性化している学校もある。

県立図書館もこのような視点をもっと打ち出しても良いのではないか。